歴史総合-DX

**1918年①（大正7）　米騒動**

ドイツを破った日本政府は、今度はイギリスの要請もありロシア革命に介入してシベリアに派兵することとなり、 7月23日に北海道への出稼ぎ労働の多かった富山県の魚津町（今の富山市魚津）の主婦らが、米問屋が港から県外に米を運び出すところを目撃し、米の搬出を阻止しようとする騒ぎが勃発した。この出来事が『越中女一揆』の見出しで新聞に掲載されると、8月2日には寺内内閣のシベリア出兵宣言で米の高値を見込んだ商社や米問屋らが売り惜しみに走り、また、思惑買いを誘って米価が急騰し、再び、富山県の水橋（今の富山 市水橋）で火がついた「米騒動」は忽ち日本全国に波及し、鎮圧のために全国各地で軍隊が出動する事態に発展した。同じ8月に兵庫県西宮市の鳴尾球場で開催予定だった第4回全国中等学校優勝野球大会も中止となってしまった。一 方、国際社会の批判をよそに日本は出兵したシベリアから最後まで兵を引かず、米高騰に対処すべく朝鮮米が半島の港から日本へ積み出されると、今度は朝鮮半島が動揺を始めた。9月には、米騒動の責任を取る形で寺内内閣が総辞職、9月末に爵位を持たない岩手県出身の平民の原敬（19代総理大臣）を総裁とする「政友会」の内閣が誕生、陸軍大臣・海軍大臣・外務大臣の要職はあいかわらずだったが、日本初の本格的な政党内閣の誕生と呼ばれた。11月に敗戦色濃厚だったドイツ帝国でドイツ革命がおこり、ドイツ皇帝ウィルヘルム2世が退位に追い込まれ、また、欧州戦線でスペイン・インフルエンザの大流行が始まり、ようやく4年3ヵ月も続いた第一次世界大戦は休戦（終結）した。